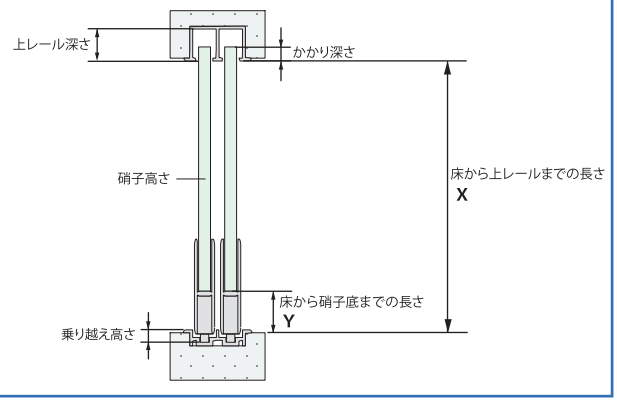
引戸硝子寸法の計算方法

硝子高さ

X寸法ーY寸法＋（上レール深さー乗り越え高さー予備2㎜）
＝
かかり深さ ※目安は6㎜ 前後



＜例＞　X寸法＝600 ㎜、Y寸法＝17.5 ㎜、上レール深さ 13.5 ㎜、
乗り越え高さ 5.5 ㎜
600－17.5＋(13.5－5.5－2)＝588.5
硝子高さは　588 ㎜　となります。

解 説

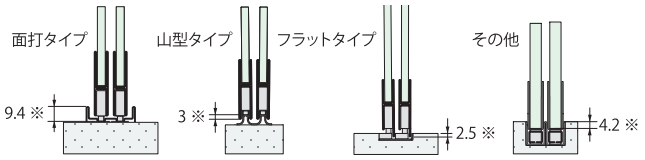
硝子底までの長さについては、硝子をコーキングやテープ材で固定される場合はその部材の厚みも含めてください。
下部の乗り越え高さが多い場合、又は、上レール深さが浅い場合は、かかり長さが 4 ㎜程度しかとれなくなる場合があります。

"乗り越え高さ" って何の寸法？

乗り越え高さとは、引戸硝子を取り付けする場合、上に持ち上げる最小必要寸法です。この寸法の空きが硝子上部に余っていないと、取付けることができません。計算式では、若干の余裕をとり、予備寸法 2 ㎜を確保しています。

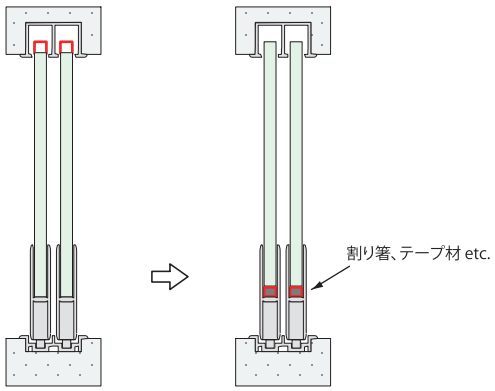
レールによって異なる "乗り越え高さ"

※ 実際にご使用になるレール形状、寸法をご確認下さい。



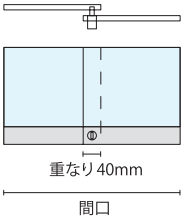
万一、硝子高さが足りなかった場合の対処法

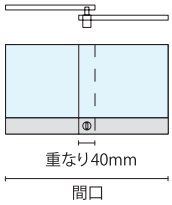
硝子底部分に、高さ調整分の厚みの割り箸やテープ材を詰めて、仕上げることも可能です。



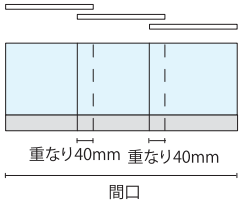
硝子幅

2枚引戸の場合　→（間口寸法＋重なり寸法）÷ 2
3枚引戸以上の場合　→（間口寸法＋重なり合計寸法）÷ 引戸枚数

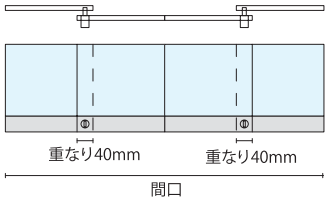




＜例＞2 枚引戸　間口寸法＝900 ㎜、
重なり 40 ㎜の場合
（900＋40）÷2＝470
硝子幅は、 470 ㎜　となります。



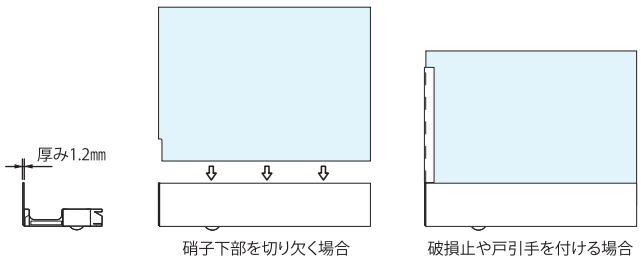
＜例＞3 枚引戸　間口寸法＝1200 ㎜、
重なり 40 ㎜の場合
（1200+80）÷3＝426.6
硝子幅は、 426 ㎜　となります。



＜例＞4 枚引戸
間口寸法＝1800 ㎜、
重なり 40 ㎜の場合
(1800+80）÷4＝470
硝子幅は、 470 ㎜
となります。

解 説

左右に開閉する引き戸の真ん中の重なりは、一般的には 40 ㎜で設計されています。プッシュ錠や取付車といった付属金物も基本的には 40 ㎜の仕様となっています。

すき間無くピッタリ収める方法（5 ㎜・6 ㎜の場合）

Hハカマの両端にカバー付取付車を使用する場合、カバーの厚み（両端で計 3 ㎜弱）が生じます。そのすき間を無くし、ピッタリ収める方法があります。
硝子幅をそのままにして、硝子下部の取付車の端カバーが付く部分を切り欠きする場合、又は、間口寸法からあらかじめ端カバーの厚みを引いて硝子幅を決め、両端に破損止や戸引手を付ける場合もあります。